

# ホームレス62人

## 支援団体調査 40—60代が半数以上

鹿児島市内

「鹿児島野宿生活者支援あう会」など鹿児島市のホームレス支援グループが進めていた「ホームレス生活者実態調査」の結果が十五日、まとまった。同市内のホームレスは六十二人で、同市が一月に実施した調査結果(四十四人)を上回った。

支援グループは結果を分析し、今後の自立支援につなげていく。

調査は五月二十六日から六月六日にかけて、同会や県社会福祉士会員、鹿児島国際大の学生ら約三十人が参加、二十一カ所で行った。

調査結果によると、四十代から六十代の男性が半数以上を占めた。建設土木業に従事していた人が多く、リストラなどで職を失った人が目立った。「仕事がない」と訴える人が多かったほか、生活保護申請については、「家族らに調査が及ぶから踏み切れない」という理由が少なくなかった。

同会会員で調査実行委員長の内洋一さん(五〇)は「市南部の調査地点が少なかったため、実数はまだ多いのではないかと」と分析、「ホームレス自立支援法が中間見直しの時期を迎えており、地方の実情を交えた提

言を行いたい」と話した。